

東京大学 農業工学・生物・環境工学分野 百年史年表

西暦	年号	東京大学・農学部記事	農業工学科, 生物・環境工学専攻記事	関連一般記事
1868	明治元年			明治維新
1869	2			耕地整理開始(岐阜県, 三十五町歩)
1871	4			文部省設置
1872	5			開拓使仮学校(札幌農学校の前身)芝増上寺に開設
1874	7	東京開成学校開校 内務省農事修学場開設		
1875	8	東京医学校開校		新地租実施
1876	9			クラーク博士札幌農学校初代校長に就任
1877	10	東京大学創設(法学部, 理学部, 文学部, 医学部) 内務省農事修学場を農学校と改称 内務省樹木試験場開設		
1878	11	農学校を駒場農学校と改称		
1879	12			明治用水着工
1881	14			農商務省創設
1882	15	樹木試験場を東京山林学校と改称		
1883	16			小型スレッシャ(脱穀機)試作
1884	17			地租条例公布
1885	18	司法省明法寮を前身とする東京法学校を法学部に合併 理学部より工芸学部を分離		
1886	19	帝国大学と改称 駒場農学校と東京山林学校を統合して東京農林学校を開設 工部省工学寮を前身とする工科大学を工芸学部と合併して工科大学開設		
1888	21			農学会「農学会報」第1号を発刊
1889	22			大日本帝国憲法発布 地租条例改正(地租米納・地券廃止) 平沢平太郎「土地改良論」刊行
1890	23	東京農林学校を吸収して農科大学開設(農学科, 農芸化学科, 獣医学科)	農科大学の創設に際し, 農学科の中に「農業工学」を主とする部を設ける「希図」が将来構想として記述される	
1891	24			札幌機械製造所(農機具製造)発足
1893	26	勅令九十三号により講座の種類と数を定める(法 22, 医 23, 工 21, 文 20, 理 17, 農 20) 農芸化学科設置 講座制施行(農学第一, 農学第二ほか, 計 20 講座)		酒匂常明「土地整理論」刊行

西暦	年号	東京大学・農学部記事	農業工学科, 生物・環境工学専攻記事	関連一般記事
1895	28	千葉演習林開設		
1896	29			河川法(旧法)公布
1897	30	東京帝国大学と改称		
1899	32	北海道演習林開設		耕地整理法(旧法)公布
1900	33		上野英三郎先生農学第二講座を分担(講師)	耕地整理法施行
1902	35		上野英三郎先生助教授に昇任	
1905	38			耕地整理法改正(目的に灌漑排水を追加) 農商務省による耕地整理講習開始 上野英三郎「耕地整理講義」刊行
1906	39		第一種耕地整理講習(農商務省委託)が農科大学において開催される(農・工学士を対象)	第二種耕地整理講習(農商務省)開始(高等農林学校卒業生を対象)
1907	40		上野英三郎先生独・仏・米へ留学(明治43年まで)	
1908	41			水利組合法公布
1909	42			耕地整理新法制定(開墾, 地目変換を認め, 耕地整理組合を法人化)
1910	43	水産学科開設		
1911	44		農業工学講座が正式に認められる	
1914	大正3年			第一次世界大戦はじまる
1915	4			社団法人土木学会第一回総会
1916	5	秩父演習林開設		岩田式耨摺機(遠心式)の発明
1919	8	帝国大学改正により各分科大学を学部と改称農科大学を農学部と改称(34講座)経済学部開設		第一次世界大戦終結開墾助成法公布
1920	9			経済恐慌が起こる
1921	10			ゴム耨摺機の発明
1922	11	愛知演習林開設		
1924	13			メートル法使用開始 京都帝国大学に農林工学科開設
1925	14	農業経済学科開設	上野英三郎先生死去(54才, 12月23日) 農学科農業土木学専修発足, これに伴い農業工学講座は農業工学第一講座(12月5日田中貞次教授担任)と改称され, 新たに農業工学第二講座(担任教官なし)が増設される	
1928	昭和3年	農学部敷地として弥生町に1.3haの土地を購入		
1929	4	附属田無農場開設		清水トンネル貫通 農業土木学会設立 このころからゴムロール式耨摺機が普及 農業土木学会「農業土木ハンドブック」刊行
1931	6			

西暦	年号	東京大学・農学部記事	農業工学科, 生物・環境工学専攻記事	関連一般記事
1932	7			時局匡救耕地関係農業 土木事業発足 小松製作所で国産第一 号トラクターを製造 救農国会が開かれる 動力脱穀機普及 忠犬ハチ公の像建立
1933	8			
1934	9			
1935	10	農業土木学科開設 本郷に移転(第一高等学校と土地交換)	3月15日 農業工学第二講座に秋葉満 寿次教授が就任(分担), これに伴い農 学科農業土木学専修は農業土木科に 昇格 4月13日 田中貞次教授農業工学第二 講座分担, 本郷移転により農学一号館 時代を迎える	
1936	11			華北産業科学研究所設 立(北京)
1937	12			日華事変 農業機械学会設立
1938	13			国家総動員法発令 モグラ暗渠用穿孔機が 普及
1939	14			第二次世界大戦がはじ まる
1940	15		8月14日 田中貞次教授の農業工学第 二講座分担が解かれ, 秋葉満寿次教授 が担任	開拓研究所(長春)設立
1941	16			農地開発法発布 カルチベータが普及 しはじめる
1942	17			食糧管理法公布 九州帝国大学に農業工 学科開設 日本農業気象学会設立
1943	18	戦時体制に入る		
1945	20			第二次世界大戦終戦 閣議, 緊急開拓実施要 領制定 第一次農地改革
1946	21	獣医学科廃止, 畜産学科開設	1月28日 農業工学第三講座設置	日本国憲法発布 自作農創設事業五か年 計画
1947	22	東京大学と改称	1月30日 杉二郎助教授農業工学第三 講座を担当 7月5日 農業機械学講座設置	第二次農地改革 ブルドーザーが抜根に使 用されはじめる 農業共同組合法公布 農業改良助成法公布
1948	23		農業土木学科を農業工学科と改称 6月30日 庄司英信教授農業機械学講 座を担当	

西暦	年号	東京大学・農学部記事	農業工学科, 生物・環境工学専攻記事	関連一般記事
1949	24	新制度へ切替 第一高等学校, 東京高等学校を 吸収して教養学部開設 教育学部開設		農林省, 農地局を設置 土地改良法公布 北海道大学農業物理学 科開設 国立学校設置法公布
1950	25	獣医学科を畜産学科から分離し てい再開設		湯川秀樹ノーベル賞受 賞農地局「新農村建設 計画」を制定国土総合 開発法公布 農業技術 研究所設置
1951	26		田中貞次教授定年退官 5月1日 山崎不二夫教授農業工学第 一講座を担当	北海道開発法公布
1952	27			農地法公布
1953	28	新制度大学院発足 (人文科学, 社会科学, 数物系, 化学系 および生物系各研究科) 付属牧場, 付属家畜病院開設		NHK テレビ放送はじまる 町村合併促進法公布 ティラー形耕うん機が登場し急速に普及しはじめ る
1954	29		農業工学第三講座は杉二郎教授と新 沢嘉芽統助教授との分担となる(2月26 日)	道路整備五か年計画発 足
1955	30		秋葉満寿次教授死去 10月1日 福田仁志教授農業工学第二 講座を担当	神武景気 愛知用水公団法公布
1956	31	林産学科開設		国連加盟
1957	32			水俣病発生が問題化 八郎潟干拓着工 日本原子力研究所で原 子の火がとる ソ連初の人工衛星打上 げ 農業土木ハンドブック全 面改訂
1958	33	医学部から薬学部が分離		国産一号電子計算機完 成 水田へのヘリコプター防 除はじまる
1959	34			伊勢湾台風
1960	35			日米安保条約調印 第一次安保闘争
1961	36		講義名称変更(4月1日) 農業工学第一→農業土木学第一 農業工学第二→農業土木学第三 農業工学第三→農業土木学第二	農業基本法公布 愛知用水完工 農業構造改善事業発足
1962	37		4月1日 農業土木学第4講座設置, 八幡敏雄教授担任	乗用型トラクターの普及 がはじまる
1963	38	文化系大学院改組	講座名変更(4月1日) 農業土木学第一→農地工学 農業土木学第二→環境調節工学 農業土木学第三→農業水利学 農業土木学第四→農業地水学 4月1日 農産機械学講座設置	水田圃場整備事業がは じまる 農村総合整備事業がは じまる ライスセンター設置顕著 日本生物環境調節研究 会発足

西暦	年号	東京大学・農学部記事	農業工学科, 生物・環境工学専攻記事	関連一般記事
1964	39	農学科を農業生物学科へ改組 畜産学科と獣医学科を獣医畜産 学科に統合改組	2月1日 細川明教授, 農産機械学講 座を担任 農業工学科 農業土木学専修・農業工 学科 農業機械学専修発足 農学部4号館半分竣工, 一部移転	改正河川法公布 OECD加盟 東海道新幹線開業 田植機開発, コンバイン 普及しはじめる カントリーエレベーター 建設はじまる 八郎潟に大潟村誕生 日本農作業研究会発足
1965	40	理科系大学院改組, 農学研究科 発足 付属園芸実験所開設 農学部図書館開館	庄司英信教授定年退官に伴い, 5月1 日安田与七郎教授農業機械学講座を 担任	
1966	41		農学部4号館完工, 移転完了	アジア開発銀行設立 閣議「土地改良長期計 画」を決定 水田パイプライン建設が はじまる
1967	42		福田仁志教授定年退官	
1968	43	東大紛争勃発	2月22日 緒形博之教授 農業水利学 講座を担任	新都市計画法公布 農業土木会館竣工 農振法制定 農林省, 稲作転換対策 発表
1969	44	入学試験中止	山崎不二夫教授定年退官, 6月1日新 沢嘉芽統教授, 農地工学講座を担任	日本万国博覧会開催 熱帯農業研究センター 設立 農業施設研究会発足 環境庁発足 沖縄返還 日中国交回復 土地改良法改正
1970	45			石油危機農村総合整備 モデル事業はじまる
1971	46			国土利用計画法発布 国土庁発足
1972	47			国際協力事業団発足 山崎農業研究所創設 「農産物の需要と生産の 長期見通し」(総合自給 率75%)が閣議決定され る
1973	48		新沢嘉芽統教授定年退官杉二郎教授 定年退官	水田総合利用対策実施
1974	49		3月31日 竹中肇教授, 農地工学講座 を担任 安田与七郎教授定年退官	
1975	50		八幡敏雄教授定年退官 5月16日 立花一雄助教授, 環境調節 工学講座担任	筑波研究学園都市への 移転はじまる
1976	51		2月16日 白井清恒教授, 農業地水学 講座を担任 12月1日 細川明教授, 農業機械学講 座を兼任	
1977	52		3月16日 立花一雄助教授, 教授に昇 任	
1978	53	その他, 1888年(明治21年)の東京 天文台から1983年(昭和58 年)の遺伝子実験施設まで14の 附属研究所, 1の資料館, 8のセ ンター, 1の実験施設が設けられ た	細川明教授兼任解除に伴い木谷収教 授, 農業機械学講座を担任	成田国際空港開港

西暦	年号	東京大学・農学部記事	農業工学科, 生物・環境工学専攻記事	関連一般記事
1980	55		緒形博之教授定年退官 6月16日 志村博康教授, 農業水利学講座担任	農地関連三法が改正される 農政審議会「80年代の農政の基本方向」を答申
1981	56		立花一雄教授定年退官	
1982	57		4月1日 高倉直教授, 環境調節工学講座担任	農村計画学会発足
1983	58		細川明教授定年退官 6月16日 森嶋博教授, 農産機械学講座担任	閣議, 第3次土地改良長期計画を決定
1984	59		竹中肇教授死去(5月14日 51才)	システム農学会設立
1985	60		3月1日 小出進教授, 農地工学講座を担当	ロータリー式植付機構を持つ高速田植機開発
1986	61		白井清恒教授定年退官 6月16日 中野政詩教授, 農業地水学講座を担当	GATT・ウルグアイ・ラウンド開始
1987	62	応用生命工学専攻を設置		
1988	63	畜産獣医学科を獣医学科と改称		農業土木学会「豊かで美しい国土・農村空間の創出に向けて」を提言 CELSS研究会発足
1989	平成元年	畜産獣医学専攻を獣医学専攻と改称し, 4年制博士課程となる		日本植物工場学会設立 農業情報利用研究会発足 消費税導入 土地基本法公布 バブル景気 東西ドイツ統一
1990	2		小出進教授定年退官 農業工学科の2専修(農業土木学専修・農業機械学専修)制度を廃止し, 農業工学科となる 6月16日 田淵俊雄教授, 農地工学講座を担当	
1991	3	応用動物科学専攻を設置		
1992	4		志村博康教授定年退官 森嶋博教授定年退官 10月16日 中村良太教授, 農業水利学講座を担当 10月16日 瀬尾康久教授, 農産機械学講座を担当	地球環境サミット(リオデジャネイロ)
1993	5		7号館建設開始	農業経営基盤強化促進法制定 戦後最大の米不作 GATT ウルグアイ・ラウンド農業合意

西暦	年号	東京大学・農学部記事	農業工学科, 生物・環境工学専攻記事	関連一般記事
1994	6	農学系研究科を農学生命科学研究科に改称 学科を廃止し, 課程制へ移行 (応用生命科学課程, 生物環境科学課程, 生物生産科学課程, 地域経済・資源科学課程, 獣医学課程) 応用生命化学, 応用生命工学, 応用動物科学, 獣医学の4専攻整備		新食糧法制定
1995	7	生産・環境生物学, 森林科学, 水圏生物科学の3専攻整備 アジア生物資源環境研究センター設置	7号館完成, 4号館から引越 田渕俊雄教授定年退官 木谷収教授定年退官 7月1日 岡本嗣男教授, 農業機械学講座を担任	阪神・淡路大震災 WTO(世界貿易機関)発足
1996	8	農業・資源経済学, 生物・環境工学, 生物材料科学の3専攻整備	1月1日 佐藤洋平教授, 農地工学講座担任 課程制と専修制を導入 生物環境科学課程 地域環境工学専修 生物生産科学課程 生物システム工学専修 大学院講座化(3大講座)により農業工学科から生物・環境工学専攻に改称, 各講座の名称変更 地域環境工学大講座 ・農地環境工学(旧 農地工学) ・水利環境工学(旧 農業水利学) ・環境地水学(旧 農業地水学) 生物システム工学大講座 ・生物環境工学(旧 環境調節工学) ・生物機械工学(旧 農業機械学) ・生物プロセス工学(旧 農産機械学) 生物環境情報工学大講座 ・生物環境情報工学研究室(新設)	
1997	9	農学国際専攻設置	高倉直教授, 定年退官 4月1日 中野政詩教授, 生物環境情報工学研究室を併任 7月1日 蔵田憲次教授, 生物環境工学研究室を担任	京都にて気候変動防止枠組み条約締結国会議が開催
1998	10	新領域創成科学研究科設立	中村良太教授, 定年退官 中野政詩教授, 定年退官 8月1日 宮崎毅教授, 環境地水学研究室を担任	長野五輪開催
1999	11		4月1日 田中忠次教授, 水利環境工学研究室を担任 4月1日 大政謙次教授, 生物環境情報工学研究室を担任	食料・農業・農村基本法公布 土壌物理学会設立
2000	12	農学部125周年記念, 東京大学弥生講堂完成 生圏システム学専攻設置	生誕100周年記念行事, 記念誌発行	中山間地域等直接支払制度実施開始

(記念誌編集委員会作成 東京大学農学部農業工学科八十周年記念誌を参考にした)